

からしだね

日々のみことばの黙想と、主日礼拝の準備に……2026.4.20-4.26

<p>4.20 月曜日</p>	<p>「あなたがたは世の光である。山の上にある町は、隠れることができない。」(マタイ 5:14) ●山の上にある町が隠れる場所もないほどに照らされるためには、四方八方、全方向から照らされる必要があります。私たちは一人だけで世の光になるわけではありません。教会という群れとして、世界をみんなで全方向に向かって照らす輝きとなるのです。そうすれば、陰が生まれる余地はなく、闇は完全に打ち消されるのです。そして、なによりその光源はイエス・キリストです。自分で光るのではなく、キリストの光を反射させるのです。</p>
<p>4.21 火曜日</p>	<p>「主よ、わたしの口に見張りを置き、唇の戸を守ってください」(詩編 141:3) ●口は目や耳とは異なり、話す・食べる・呼吸する、と言った多くの役割を担っています。そして、人が汚れるときにはいつも口に何かが入り、何かそこから出ゆきます。私たちの罪は口を通じて生じます。詩篇詩人は自分が罪に染まってしまうまいように、口を主によって制していただくことを願いました。私たちも日頃から、余計な一言を言ってしまったり、人を傷付けるような発言をしてしまったりして反省する機会が少なくありません。私たちは生きる中で、特に「口」についての守りと導きを願うのが賢明なのでしょう。</p>
<p>4.22 水曜日</p>	<p>「思い煩いは、何もかも神にお任せしなさい。神が、あなたがたのことを心にかけていてくださるからです。」(Iペトロ 5:7) ●ペトロはイエスさまと旅をする中でいつも自分の立ち位置や、誠実さに不安を感じ、「思い煩っていた」に違いありません。案の定、彼は三度イエスさまを「知らない」と言い失敗します。しかし、何度でも赦してもらえるとこのイエスさまの計り知れない愛を体験することでその「思い煩い」から解放されたのです。「イエスさまがいれば大丈夫」「父なる神さまが味方なんだ!」失敗すればするほど、赦されれば赦されるほどに、思い煩いから自由になるのです。</p>
<p>4.23 木曜日</p>	<p>「神はすべてを時宜にかなうように造り、また、永遠を思う心を人に与えられる。それでもなお、神のなさる業を始めから終わりまで見極めることは許されていない。」(コヘレト 3:11) ●「すべての事には時がある」</p>

というフレーズで有名なこのみことばは神が人に「永遠を思う心」を与えるという意味深な内容と共に語られています。私たちは知っています。有限である人間が無限である永遠の神の出来事を知るためにはイエス・キリストへの信仰が必要であるということを。すべての事柄はイエス・キリストのために用意されており、この世界は始めから終わりまでイエス・キリストのために設計されているのです。永遠なるキリストを知り尽くすことはできません。ただ信じることに集中したいと思います。

4.24
金曜日

「知恵を授けるのは主。主の口は知識と英知を与える。」(箴言 2:6)
●神の知恵とはイエス・キリストを指します(I コリ 1:24)。私たちは知識や英知を得ようと晩学に励み、努力します。しかし、根本的に知識や英知を得るために必要なのはキリストへの信仰であり、これによって知恵が私たちの内に注入されるのです。漁村の貧しい若者であったイエスの弟子たちは驚くべき成長を遂げ、ギリシャ語を操り深い思慮と共に教会を形成してゆきました。これは弟子たちが優秀であったから可能だったわけではありません。キリストという知恵が彼らに注がれたから可能となったのです。

4.25
土曜日

「わたしは福音を恥としない。福音は、ユダヤ人をはじめ、ギリシア人にも、信じる者すべてに救いをもたらす神の力だからです。」(ローマ 1:16) ●この世界では力ある者となき者が明確に分けられています。我々が住むこの国も、大国に従属しなければ生きて行けない現実を突き付けられています。しかし、クリスチャンである私たちにはすべての力を凌駕する「神の力」が与えられています。それは、世界が持っている力とは全く異なる形のもので、この力こそ、時代を超えて、人種や価値観を超えて唯一すべての人々を救い出す力となるのです。

4.26
日曜日

「キリストがわたしたちのためにご自身を献げられたのは、わたしたちをあらゆる不法から贖い出し、善い行いに熱心な民を御自分のものとしてきよめるためだったのです。」(テトス 2:14) ●キリストの十字架は自分では自身を清めることができない力なき私たちのためでした。そんな私たちを贖い出し、清めることをキリストは命を懸けて成し遂げてくださいました。であるならば、私たちはあきらめません。キリストにあって善い行いに熱心であることを切に祈り求めキリストの似姿に近づいてゆきましょう。